

派 遣 報 告 書（報告者；佐田明美）

大会名	SoftBank ウインターカップ 2024 令和6年度 第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会
開催地	東京体育館
日 時	令和6年12月23日～12月24日
担当ゲーム1	（1回戦） 県立小林高等学校（宮崎県） v s 高川学園高等学校（山口県）
クルー	CC：佐田明美 U1：大西 空氏（香川 A 級） U2：宮澤孝尚氏（東京 B 級）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
・基本的なメカニクスを実践することで、判定につなげていく。 ・ベンチとのコミュニケーションが必要な場面が出てくるが、両チームとも公平に。 ・キープレイヤーの把握。予選では出場していなかった選手が主力として出てくる。 ・影響まで見て吹くが、やられた方が不利にならないように、イミディエイトホイッスルもあり。	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference（IR：平原氏（S 級））	
・3人それぞれが振り返った内容が気になるようになるので、今後、改善していくとよい。 ・3Q にプレイヤーが変わったとき、3人ともが我慢して笛を飲み込んでいた。選手が変われば、プレイの質やタフさも変わるので、影響が出てくる。 ・ブザーの音が聞こえず、交代やタイムアウトのタイミングを逸してしまうことがないよう、ボールを渡す前にT0を確認したり、ゲームの状況からタイムアウトが入りそうな雰囲気予測する。オポジットにいるレフリーが気を配る。	
担当ゲーム2	（2回戦） 盛岡白百合学園高等学校（岩手県） v s 東京成徳高等学校（東京都）
クルー	CC：渡邊 整氏（栃木 S 級） U1：佐田明美 U2：相澤慎之介氏（青森 A 級）
（担当ゲーム2）Pre-Game Conference	
・プロテクトシューターについて、プレイヤーを守るため、ディフェンスに努力してもらう判定をしていく。ドライブ、アウトサイドシュートなど、プレイに合わせた判定の準備をする。（アングル、ポジション） ・ブロックチャージを判定するプロトコルの確認。 ・エッジのプレイは基本的にリードだが、飛び込みリバウンドが考えられるので、このゲームに関しては、リードよりもトレイルがFULまで確認する場面が出てくる。（チームに不利にならないように判定することが大事。クルーとしてのメカの共有） ・シングルコールがベストだが、ダブルになっても良い。こういう大会はその方が、チームも見ている人も納得できることがある。	
（担当ゲーム2）Post-Game Conference	
・00B の場面で、ディレクションを迷っているように見える時があるのでクルーとしては不安になる。間を置かずに、指し示す方がよい。 ・4Q にチャージングを決断できたのはよかった。 ・1試合を通して、チャージングが気になった。誰が判定するべきというわけではなく、映像から振り返るをして、良いアングルをとる努力をしていく。	
今大会に参加しての感想など	
1回戦はCCとして、2回戦はトップレフリーの方と吹く機会をいただいた。初対面の方と、他ブロックのチームのゲームを担当するために、クルーと連絡を取り、また、映像でスカウティングをするなど、大会までにできる準備を行った。4面展開されているコートで、映像でも残ることから、ディレクションやレポートもより大きくわかりやすくしたつもりではあったが、振り返ると、改善すべき内容がまだまだたくさんあった。 2回戦はトップレフリーの方と吹かせていただき、「判定するためのメカ」であること、ゲームに合わせた「ポジションやアングルを取る努力をすること」を、理由をもってご指導いただいた。また、笛を鳴らすタイミングやPOCなど、私も実際の場面で実践できるようになりたいと、一緒にコートに立てたからこそ感じる事ができた部分がたくさんあった。今後、審判をする際の着眼点にしていきたいし、県内にも還元していきたい。 毎年、審判責任者としてこの大会を運営してくださっている東京都の平原先生をはじめ、東京高体連の先生方には、ご自身も審判やインストラクターをしながら、さまざまな気遣き、感謝の念でいっぱいです。また、派遣していただいた大分県協会、審判委員会の皆様に感謝申し上げ、報告いたします。	